

香曾我部義則先生の 今月のカルテ 24

# 慢性痛とペインクリニック

ここ数年の間、痛みの治療に効果を発揮しているのが、ブロック治療を主体にしたペインクリニック。その治療法について、梶木病院麻酔科・ペインクリニック科の香曾我部義則先生が、分かりやすく説明してくれるこのコラム。第24回のカルテは、顔面神経麻痺（まひ）についてです。

顔面神経麻痺の中で、間10万人あたり23人程、免疫疾患、ウイルス感染も、原因不明の特発性末梢性顔面神経麻痺を総称して「ベル麻痺」と呼んでいます。これはイギリスの神経学者ベル氏の報告以来、付けられた名称で、ベル麻痺は、顔面神経麻痺の約7割を占めます。

## 顔の神経が腫れ、筋肉の機能不全が生じる「ベル麻痺」症状の軽い重いに関わらず、初期の段階から治療を

原因は不明ですが、虚血（組織や臓器への動脈血の流入が減少あるいは力になってきています。いずれにしても顔面の神経が腫れ、顔の筋肉の機能不全が生じ、脱力と麻痺が起る病気で、軽度の筋力低下から完全麻痺までさまざまです。

が、顔面の脱力は突然現れます。通常顔の片方だけが侵され脱力が生じ、麻痺した側が突っ張る感じや痺（しび）れ、重たさを感じます。時に麻痺が生じる前に耳の周囲や耳後部に痛みが出るこ

です。味覚障害が生じることもあります。大切なことは、ベル麻痺か、ほかの原因による麻痺かを区別することで、脳卒中による麻痺は顔より下だけに急に起こり、片側の腕や足の脱力を起こします。また脳腫瘍（しゅよう）や中耳の病気でも起こりますが、発症が緩やかでCTやMRI検査ではっきりさせることができません。

者の顔面神経から単純ヘルペスI型のゲノムが検出され、ウイルス説が有力になってきています。むしろはしばしばあります。顔の上部では、まぶたが閉じにくくなったり、まったく閉じられなくなった

りし、また、洗面時に口から水が漏れることで麻痺に気付くこともしばしばあります。顔の上部では、まぶたが閉じにくくなったり、まったく閉じられなくなった

が残り、通常は神経の炎症や腫れをとるためステロイドの内服（時に点滴）、ビタミン剤及び抗ウイルス薬の投与が行われます。麻痺の程度が強い場合は早期の呈状神経節ブロックが麻痺の改善度を高めることとしてペインクリニックで行われています。呈状神経節ブロックによって虚血の改善や神経の浮腫の減少、抗炎症効果も期待できるからです。麻痺が強い場合は試みてみようと思います。

軽度の筋力低下から完全麻痺までさまざまです。ため傷がつきやすく失明の危険があり注意が必要

りし、また、洗面時に口から水が漏れることで麻痺に気付くこともしばしばあります。顔の上部では、まぶたが閉じにくくなったり、まったく閉じられなくなった

かかると回復は難しく、軽度からかなりの重症の後遺症

■プロフィール こうそかべ・よしのり  
昭和54年3月岡山大学医学部卒業後、同大学麻酔科、蘇生科講師、岡山労災病院麻酔科第一部長を経て平成16年4月1日から現職。日本麻酔学会認定医、日本ペインクリニック学会認定医、現在日本麻酔学会、日本ペインクリニック学会、日本慢性疼痛学会、国際疼痛学会などに所属

次回回は三又（さんざ）  
■又モ 問い合わせ先  
☎（293）3355代  
梶木病院（西花尻）